

アクションプラン（案）作成に向けたアンケートとりまとめ結果（1/3）

委員	取組の主体（団体）	取り組む地域	取組内容	取組の背景やねらい	必要な行政の支援内容	アクションプラン案への反映
A委員	小学生または中学生	町内会単位	『小・中学生主催ラジオ体操会』 ・毎朝、地域の公園等で小・中学生が主催するラジオ体操会を開催する。 ・参加対象は特に定めず、自由参加とする。 ・同様な考え方（下記の背景やねらい参照）で、主催者は異なるが「地域食堂」、公園や空きスペースを活用しカフェなどの簡単なイベントを組み合わせた「交流タイム」の設定、大型ショッピングセンターを活用したウォーキングイベントなどさまざまな手法が考えられる。年代、性別を問わず誰でも、気軽に参加できる（自由参加）、負担が少ない、頻繁に顔を合わすことが見込めるなどの要件があることが大切。	・地域力を高めるためには、まず地域の交流力、ひいては個人の交流力を高めることが大切である。 ・地域と関わることへの煩わしさや負担を感じやすい現代において、気楽に自発的に参加し交流できる場を作り交流力の向上につなげる。	・キャンペーン告知 ・必要があれば防犯カメラ設置の補助 ・行政職員の参加	☆掲載 【2-(1)-(ウ) 交流機会の創出】
	地域団体、NPO、行政、社協、福祉施設、企業、専門家、学校	小学校区、中学校区、安佐南区全域、市全域	『「地域ケア会議」および「協議体」の活性化と相互の連携、双方向化』 ・地域共生型社会をより充実した取り組みとするために、主に町内会・小学校区・中学校区単位では地域住民を中心とし必要に応じて関係者を加える「地域ケア会議」の設置、そして、主に区域では地域代表者および上記関係者によって構成される「協議体」の設置を国（もちろん広島市も）示している。これら会議、協議体が活性化し、官民および関係者の連携、協働力が高まり重層的な支援力を持つことはとても大切である。さらに、地域⇄小学校区⇄中学校区⇄市というそれぞれのレベルで双方向に情報が共有され、必要に応じて圏域を超えた協働体制が生まれることや新たな仕組みや制度創設につながることをぜひ期待したい。	・例えば、障がいのある子どもたちを例にとると、同様のことをねらいとした「自立支援協議会」というのがあるが、専門部会、区全体会議、市レベルの会議がそれぞれ設置されているが、双方向的な情報の行き来は若干あっても、単なる情報共有で終わることが多く、新たな仕組み、制度創設提案を行う力量や機能は持っていないのが現状であると感じている。	・行政は支援者ではなく地域共生社会を実現するための当事者として参加することが大切である。またこの取り組みが実現するには、東区が先行して実施している縦割り対応の弊害をなくした行政職員体制やより一層のアウトリーチが行われ、地域と行政がともに地域の目線で汗を流し、協働の経験値を高めることが大切。	☆広島市地域共生社会実現計画に基づく全市的な取組として、今後、活性化や連携の推進方法等を検討していくこととし、本アクションプランには掲載しない。
	行政、地域団体、NPO、社協、福祉施設、企業、専門家、学校等	安佐南区全域	『「地域共生推進会議」の創設』 地域共生型社会を実現するために「地域共生推進窓口」を区役所内に設置する。そこでは、地域共生に向けた住民等からの多様な相談を受け付け、必要に応じて現地向けに出向くなどして、活動課題の解決を手伝う、活動の定着発展のためのアドバイスをを行うなどの中間支援的な役割を果たす。その窓口の母体となるのがこの地域共生推進会議であり、上記関係者で構成し実際の運営も行う。相談対応、中間支援活動を重ねることにより、地域共生社会を後押しするための官民の協働のプラットフォームができていくとともに、地域共生社会の未来像およびその社会の中でそれぞれが果たす役割が見通せるようになることを期待したい。	・現状で、区役所の地域おこし推進課、安佐南区社会福祉協議会がこうした役割の一部を担っていると思われるが、地域活動はより多種多様に展開されており、今後一層そうした市民活動が活性化していくことが想定されることから、官民協働でそうした地域活動を見つめ、ともに考え、支援し、地域共生活動に高めていったり、そのためのバックアッププラットフォームを構築していくことはとても大切だと考えている。そうした官民協働の中間支援組織が区域にあるということも重要であると思う。	・必要経費の予算化 ・担当職員の配置 ・協働しようとする姿勢	☆広島市地域共生社会実現計画に基づく全市的な取組として、地域共生社会の実現に向けた取組状況を踏まえ、必要性、役割なども含めて今後、検討していくこととし、本アクションプランには掲載しない。
B委員	安佐南区の大学とその周辺の各種団体	安佐南区全域	安佐南区民まつりの運営に、区内の大学生にも参画してもらい、地域の特色、大学の特色をアピールする。	・安佐南区は5大学・2短大が集中する文教区であり、若者が集まるこの地域を、若い力と知恵で活性化を図る。	・会場となる公共施設の提供 ・各大学間との連絡調整	☆以下の事業での対応を検討【4-(1) 大学と地域の交流・連携の促進】
	武田山に関するボランティア団体	安佐南区全域	年に一度「安佐南区武田山登山会」を開催する。いくつかある登山ルートをボランティアの解説を聞きながら辿り、一斉に山頂を目指す。なお、このプログラムは、以前、祇園町商工会と公民館、各ボランティア団体により「武田山一斉登山」として実施していたが、現在は休止状態にある。	・安佐南区のシンボリックな山である武田山を、身近なハイキングコースとして市民に親しんでもらうことと、武田山と戦国武将の安芸武田氏の歴史ロマンにも触れてもらう。	・計画立案 ・ボランティア団体への依頼	☆掲載 【1-(2)-(7) ふるさと安佐南再発見事業】
C委員	公民館、小学校、大学、地域団体等	安佐南区全域	『地域資源を活用した魅力づくり、魅力の情報発信』 ・公民館活動の一環として作成された古代山陽道を基にした散策ルート、沼田まちづくり協議会の散策ルートなどをベースに、人が楽しめる環境づくりを進めて、区内外の人に紹介する。 ・併せて、地域のおすすめの食の紹介などを行う。 ・環境づくりの一環として、沼田地区の散策ルートに市立大学芸術学部の彫刻等の作品を展示する。 ・子どもの頃から郷土の歴史を学び、郷土への関心を高めるため、小学校で散策ルートを課題とした総合学習を実施する。 ・四季の写真等を用いて、地域の自然や見所を SNS などで発信する。（大学のウォーキング系サークルの協力を得た情報発信）	・地域の自然、文化、歴史などの資源を活用して、生活環境を豊かにする。 ・それらを活用して、人が訪れる地域づくりを行う。	・地域の魅力の掘り起こし ・公民館、学校、地域団体への働きかけ ・地域活動への支援 ・散策ルートの安全確保	☆一部掲載 【1-(2)-(4) 地域資源となる公共施設等を活用した魅力づくり】 ☆その他は、以下の事業での対応を検討 【1-(1)-(4) 安佐南マイタウンレポーター事業】 【4-(1) 大学と地域の交流・連携の促進】
D委員	地域団体	町内会単位	・自主防災組織の整備、強化	・各学区内の自主防災会について、地域によって整備状況にばらつきがあり、中には、防災訓練、避難訓練すら実施できていない地域がある。 ・広島豪雨災害と同レベルの豪雨によって再度災害が発生する可能性は否定できず、ハード面での災害対策が困難であれば、自主防災組織の早急な整備、強化が必要である。	・自主防災組織の活動への支援 ・モデル地区となる防災組織の紹介	☆掲載 【2-(2)-(4) 災害に強いまちづくりの推進】

アクションプラン案作成に向けたアンケートとりまとめ結果 (2/3)

委員	取組の主体 (団体)	取り組む地域	取組内容	取組の背景やねらい	必要な行政の支援内容	アクションプラン案への反映
E 委員	安の花田植実行委員会	安地域	『安の花田植』 戦国時代から 400 年以上、江戸時代から 200 年以上、途中途絶えたものの安地区で盛んにおこなわれてきた。昭和 34 年に長楽寺の観音田で行った「安の花田植」は途絶えてしまった。先人たちが残してくれたこの素晴らしい伝統芸能がこのまま過去の史実に終わってしまうのではないかと、との懸念から、平成 15 年に、安の花田植を後世に伝えていこうという活動を始め、「安の花田植保存会」が設立され、幸いにも楽譜やテープが見つかり、当時を知るわずかな聞き伝えを頼りに早乙女踊りや采ぶりを形として再現することができた。平成 18 年に 48 年ぶりに「安の花田植実行委員会」を立ち上げ、「大朝飾り牛保存会」の協力を得て、再現することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 安地域の各種団体が協力して実施することにより、地域の連帯と人間関係が形成された。 初めて花田植を見た人たちは、想像以上の迫力と先人たちが残してくれた素晴らしい郷土芸能の素晴らしさに感動した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の都市化が進み、花田植をする田が無くなった。広島県と協議して県営住宅跡地が草原となっている場所を長期的に地域に利用させてほしい。 	☆以下の事業での対応を検討【1-(2)-(7) ふるさと安佐南再発見事業】
F 委員	各学区体育協会	安佐南区全域	<ul style="list-style-type: none"> 区内の大学の特徴を把握し、各学区体協が協働できる項目を抽出し、双方が各地区内で課題解決につながり、かつ活力ある地域活動につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学と各学区の連携を図ることと、区内での人的交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各大学が行っている地域交流の事例紹介 各大学の知的資源の紹介 	☆以下の事業での対応を検討【4-(1) 大学と地域の交流・連携の促進】
G 委員	毘沙門台学区社協	毘沙門台学区	『住民の健康づくり』 <ul style="list-style-type: none"> 毘沙門台学区のコミュニティ機能の充実と「健康のまちづくり」推進 街区公園 9 か所に設置した高齢者向け健康遊具めぐり (移動距離 3km) の有効利用の促進 ①高齢者向け健康遊具の活用促進「お元氣くらぶ」活動の拡充 ②健康づくりに取り組んでいるグループと取り組んでいないグループの日常生活の健康格差の検証プロジェクトの取組み 大学連携(広島都市学園大学リハビリテーション科 宮原 講師 実施期間：:約 6 ヶ月間のデータ収集と比較解析を行う。 収集データは、活動強度・心拍数・歩数・睡眠状況・移動時間 ③事前検査の実施準備の内容 認知機能検査・身体機能検査(握力)・QOL・手指の巧緻性	①健康寿命の延伸による医療費の削減を目指すモデルづくり ②健康にかんする講座の企画提供。栄養摂取と口腔ケアほか ③健康運動メニューの補完策の充実「ラジオ体操教室」の定例開催。	特定健診受診目標の設定とインセンティブ制度の検討 <ul style="list-style-type: none"> 疾病の早期発見と早期治療による健康寿命の延伸にとりくみ、医療費、薬剤費の削減を目指す。 健診結果にもとづく食生活改善指導要員の拡充 看護師経験者の活用策の検討 健康に関する取り組みを行い、医療費や薬剤費の削減に努めている住民向けのインセンティブ制度の検討をお願いしたい。 	☆掲載【2-(3) 健康に暮らせるまちづくりの推進】
	学区自主防災連合会・民生委員児童委員協議会・学区構成町内会ほか	毘沙門台学区および隣接する学区	①大規模災害発生時の人災防止の取組み 避難行動要支援者の支援方法の協議と体制の確立 ②防災意識啓発用 DVD の作成と活用 (暫定版 DVD) 「避難行動を呼びかける警戒レベルとは」 空から見てみよう 毘沙門台 グーグルマップによる危険箇所は <ul style="list-style-type: none"> 映像による毘沙門台災害時対応マニュアルの作成と活用 グーグルマップを活用した、避難行動要支援者のマーキングにより、要員の救助行動の迅速化に努める。 	ベースのマニュアルと併用して、緊急時の初対応力を強化する。 あらゆる機会に住民にも周知し、避難行動の効率アップに努める。	防災関連 DVD を順次充実させるため、作製経費の助成をお願いしたい。	☆掲載【2-(2)-(4) 災害に強いまちづくりの推進】のうち、「避難行動要支援者避難支援事業の推進」
H 委員	J A	沼田地区	<ul style="list-style-type: none"> 生産者の苦労や食べ物の大切さを学び、豊かな心を育むことを目的として、子どもたちが米や野菜づくりを体験する食育体験ツアーに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 沼田地区は、広島市内中心部から 30 分程度で行くことができるため、生産者と消費者のコミュニケーションづくりの場として最適といえる。 		☆掲載【3-(3) 子どもたちの豊かな心を育む取組】
I 委員	ひろしま西風新都クラブ	西風新都	<ul style="list-style-type: none"> 地域への社会貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 各企業団地と住宅地区とは区画で分かれており、交流が無い一方で、道路に関しては共有であることから、事故が無い安全なまちづくりに寄与したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体との仲介 	☆掲載【2-(2)-(4) 安全なまちづくりの推進】のうち、『「減らそう犯罪」推進事業の推進】
			<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置に対する企業側からの寄与 (ランニングコスト負担等) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今、事件・事故等への迅速な対応のため、地域によっては防犯カメラの設置が増えているが、抑止の点からも必要であると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置 	☆以下の事業での対応を検討【2-(2)-(4) 安全なまちづくりの推進】
			<ul style="list-style-type: none"> 西風新都内の各大学との連携 (特にリクルート) 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、若年労働者不足に対して、西風新都にある企業、大学で定期的に就職合同説明会等を実施したい。 		☆掲載【4-(2) 地学地就の促進】
J 委員	安佐南区地域保健対策協議会	安佐南区全域	『安全・安心・健康のネットワークづくり』 <ul style="list-style-type: none"> 医科、歯科診療所、病院、保健薬局を健康づくりの拠点として位置付けた上で、 ①近隣地域での健康に関する諸行事のロコミや掲示による情報提供 ②利用者への相談窓口 (安佐南区地域保健対策協議会が作成した情報マップなどの活用による相談先の紹介) ③自院での取組 (講演会や対応) など 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターや公民館に比べ、格段に事業所数が多く利用者も多いので、啓蒙や宣伝の場として利用価値が高い。安佐南区地域保健対策協議会として安佐南区での統一的な取組も行っており、安全・安心・健康のネットワークが形成しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークづくりのサポート、掲示板費用や活動費用に対する資金援助 	☆掲載【2-(3) 健康に暮らせるまちづくりの推進】

アクションプラン案作成に向けたアンケートとりまとめ結果 (3/3)

委員	取組の主体 (団体)	取り組む地域	取組内容	取組の背景やねらい	必要な行政の支援内容	アクションプラン案への反映
K委員	e子育てセンター、町内会	祇園地区	・転入1年以内の子育て世帯（主に3歳未満の乳幼児を持つ家族）を対象とした地域（町内会）との交流会	・祇園地区は、転出入者が多い地域であり、特に保育園・幼稚園・学校などに通う子どもがいない世帯は情報が遮断される傾向にあることから、それらの世帯と地域の人が交流を持つことにより、顔の見える近所のつながりを形成する。	・顔の見える近所のつながりの形成 ・町内会に対する呼びかけ、交流会の広報、情報提供	☆掲載 【2-(2)-(7) 地域ぐるみの子育てに向けた取組】
	e子育てセンター、区内大学	安佐南区全域	・長期休暇を利用して、大学生と利用者親子の交流を図ることを目的とする。大学生には、現代の子育ての課題、地域子育て支援拠点施設事業の役割を知り、子育て世代との交流を通じて子どもと遊んだり、保護者と話せる場を提供する。	・地域の学生等、地域の多様な世代との連携・交流を図る。	・学部、学科を問わず、各大学へのアプローチ、コーディネート	☆掲載 【2-(2)-(7) 地域ぐるみの子育てに向けた取組】 【4-(1) 大学と地域の交流・連携の促進】
L委員	伴地域女性会	伴地域	・年2~3回のセミナーや区主催の研修会の開催による継続的な学習活動 ・夏には年1回の区スポーツ大会 ・平和活動として8月6日の嵐の中の母子像供養、ジュノー博士記念碑献花 ・夏の盆踊り大会、秋のふるさと祭りなど地域の行事への協力・参加 ・沼田地区のお宝発見 ・散策マップを活用したおもてなし	・国際平和文化都市にふさわしい活動や、地域の豊かなまちづくりに貢献すること。ただし、会員の若返りを期待し、会員の募集と魅力ある活動を心がけ、日々努力を惜しまない。	・地域の中学校・高校・大学、その他若い方々への協力依頼	☆一部掲載 【1-(2)-(7) ふるさと安佐南再発見事業】 ☆その他は、以下の事業での対応を検討 【1-(2)-(4) 地域資源となる公共施設等を活用した魅力づくり】 【2-(1)-(ウ) 交流機会の創出】 【4-(3) 地域への知識・技術の還元・活用によるまちづくりの推進】